

第3学年 保健体育科学習指導案

日 時 平成21年11月17日(火) 5校時
場 所 農業者トレーニングセンター
生 徒 3年AB組 女子32名
授業者 立野直美

1 単元名 ダンス(創作ダンス)

2 単元について

(1) 教材観

ダンスは、個人や集団で踊り、表現したり交流したりすることが楽しい運動である。また、音楽やリズムに合わせて踊ったり、動きを工夫して踊ったりする楽しさや喜びを味わうことができる。イメージを自由に表現して踊る「創作ダンス」、伝承された踊り方を身につけて踊る「フォークダンス」、現代的なリズムに乗って動きを工夫して自由に踊る「現代的なリズムのダンス」を踊ることができるようにすることをねらいとし、自己の能力に適した課題に取り組んで表現したり、みんなと一緒に踊ったりする運動である。

新学習指導要領の第3学年の創作ダンスの学習のねらいは、「感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、イメージを深めた表現や踊りを通じた発表ができるようにする」である。このことから、表したいイメージや思いを自由に身体で表現することにより、豊かな感性や創造性を育てることができる。また、仲間とコミュニケーションをとりながら、共に考え工夫し合い、表現したり、見せ合って、さらにお互いに良さを認め合いながら、創作する楽しさや喜びを味わうことができる教材である。

(2) 生徒観

運動好きの生徒が多く、明るく積極的に授業に取り組んでいる。運動が得意な生徒もそうでない生徒も意欲的に取り組む姿が見られる。

ダンスに関する事前アンケート調査より

◇あなたはダンスが好きですか。

ア とても好き 3人	イ 好きな方 18人	ウ 嫌いな方 3人
------------	------------	-----------

◇ダンスの授業で「楽しい」とか「うれしい」とか感じるのはどんなときですか。(複数回答)

・カッコイイ動きができた時(5人)	・うまく踊れた時(4人)
・自分のアイデアが生かされた時(8人)	・仲間と協力して踊れた時(12人)
・自分の思っていることを自由に表現できた時(5人)	・人からほめられた時(3人)

◇ダンスの授業で「いやだな」「したくないな」と感じるのはどんなときですか。(複数回答)

・恥ずかしくて、なりきって踊れない時(6人)	・人前で発表する時(10人)
・踊り方や身のこなしが、うまく音楽にのれない時(2人)	
・イメージがわからず、どう動いていいかわからない時(7人)	
・上手に格好良く踊れない時(8人)	

アンケートの結果によると、生徒たちはダンスの授業にとっても関心が強く、うまく踊れるようになりたいと思っている。ダンスの授業は、1, 2年時にも経験しており、アイデアを出し合い、仲間と共に協力して創作して踊る楽しさも感じている。反面、恥ずかしがったり、自分の思

うことが表現できない、イメージがわからないためどう動いたらいいかわからないという体験もしており、人前で踊ることを苦手になっている生徒もいる。

このような実態から、仲間との関わりをより多くするダンスの授業を通して、仲間とのコミュニケーションを深め、お互いを理解することにより、恥ずかしがらずに楽しく表現活動ができることを期待している。

(3) 指導観

指導にあたっては、ダンスの授業を通して、リズムにのって踊る楽しさだけでなく、仲間と豊かに関わりながら、仲間の良いところを見つけたり、恥ずかしがらずに自由な発想でのびのびと動く楽しさを味わわせたい。そこで、仲間と豊かに関わるために、体ほぐしの運動を行い、恥ずかしさを和らげるために遊びの要素を取り入れた授業の工夫をしたい。また、生徒の意欲や個性を引き出す言葉かけを工夫し、のびのびと活動させていきたい。

本校の研究主題である「意欲をもって学習する生徒の育成 ～気付きのある指導過程の工夫を通して～」であるが、導入で気付きの場面を設定し、本時の課題とイメージをつなぐことができるように、効果音を聞かせたり、ビデオを見せる。習得した動きを活用して課題からイメージを膨らませ、動きを構成したり、感じをこめて踊れるよう、開放的な雰囲気の中で授業を展開する。また、自由な発想で動く楽しさや生徒一人一人の持つ個性を生かして仲間と共に創作していく楽しさを味わわせたいと考える。そして、中学校最後のダンスの授業として、表したいイメージを一層深めて、個や群で緩急、強弱や空間の使い方に変化をつけて、ひとまとまりの動きにして表すことができることを目指したいと考えている。

毎時間の中に見せ合いの場を設定し、生徒の評価能力の育成を図る。また、自分たちの動きをビデオに撮ったり、ダンスのビデオを見せて、視点を与え活動に生かしたい。

3 単元の目標

- (1) ダンスの特性に触れ、運動とか関わりを深めることで楽しさや喜びを味わい、感じを込めて踊ったり、みんなで楽しく踊ったりすることができる。また、健康・安全を確保することができるようにする。(関心・意欲・態度)
- (2) グループや自己の能力に適した学習課題をもって学習することができる。作品の完成に向けて話し合いや教え合いをしながら、イメージを膨らませ、練習の仕方や発表の仕方を工夫することができる。(思考・判断)
- (3) いろいろな課題から中心となるものの感じをとらえ、個と集団の動き方や緩急、強弱や空間の使い方を工夫して表現できる。よい動きや工夫した動きを共感することができる。(技能)
- (4) 踊りの特徴と表現の仕方、創作の仕方や発表の仕方を工夫するための基礎的な知識を身に付け、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。(知識・理解)

4 単元の指導計画と評価計画

時間	主な学習活動	目標	関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
1	○オリエンテーション	・創作ダンスの特性やねらいの確認 ・学習の進め方の確認				・ねらいや学習の仕方などの見通しがもてる。 ・学習の進め方を確認できる。
2 3 4	○運動課題で踊る	・思いっきり動き、楽しく踊る。 ・イメージを膨らませて動きを見つけ出す。 ・イメージにふさわしい動きを表現する。	仲間と協力しながら、思いっきり楽しく踊ろうとする。	自己やグループの課題についてイメージを持ち、練習の仕方を工夫することができる。	課題からイメージを膨らませ、動きに変えて表現できる。	ダンスの名称や用語を理解できる。
5 6 7 ⑧	○イメージ課題で踊る ・静と動 ・台風 ・海 ・雪	・課題からイメージを膨らませて動きを作り出す。 ・グループで協力して練習する。	互いに動きの良さを認め合っており、協力しながら練習や発表をしようとしている。	課題からイメージにふさわしい動きを選択することができる。	イメージを膨らませた動きを、身体を使って表現できる。	
9 10 11	○作品作り	感じを込めて楽しく踊る。	進んで意見を出すなど自主的に学習を進めようとする。	グループで選んだ音楽にあった踊りの構成をみつけようとする。	仲間とリズムや動きを共有し、踊ることができる。	
12	○発表会 ○鑑賞会	発表会で大きな動きで感じを込めて踊る。	・発表会を楽しもうとする。 ・他のグループの良さを見つけようとする。	グループや自分の課題の取り組みや達成状況を学習カード等を参考に判断することができる。	大きな動きで、感じを込めて踊ることができる。	学習の振り返りをすることができる。

5 本時の目標

- (1) 課題からイメージを膨らませることができ、膨らませたイメージを出し合い、動きや表現を工夫することができる。
- (2) イメージに合った動きを表現し、仲間と共に動きを合わせて表現することができる。
- (3) 仲間と協力しながら練習や発表をすることができ、お互いの良さや違いを認め合おうとすることができる。

6 本時の指導構想

習得した動きを活用して、本時の課題とイメージをつなぐ場面では、個々にイメージを持つことができ、そのイメージを膨らませ、動きに変えてそのものになりきり表現する。グループでの活動の場面では、個々のイメージから、コミュニケーションを図りながら作品を創らせたい。そして仲間と共に創作していく楽しさやお互いの違いや良さを認め合い、一人ひとりの個性を生かし、協力して創作する喜びを味わわせたいと考える。

本校の研究主題である「意欲をもって学習する生徒の育成 ～気付きのある指導過程の工夫を通して～」であるが、本時の学習課題へつなげるために、導入時に効果音を聞かせたり、ビデオを見せ、イメージの共有を図る（気付き）。課題から一人ひとりがイメージを膨らませ、グループで膨らませたイメージを出し合い、グループ活動で動きに変えて表現する（予想する）。そして完成した作品を発表する（確かめる）。最後に自己評価を行い、自分たちの仲間の良さを認める（まとめる）。という流れで授業を進めていきたい。

このような指導課程の工夫により、気付きを与え、導入時に授業全体のイメージを持つことができ、学習の意欲につながるのではないかと考える。

7 本時の評価規準

観点	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：生徒への支援
関心 意欲 態度	踊る楽しさを味わいながら積極的に仲間に声をかけ、互いの動きや表現の良さを認め合って、協力して練習や発表を行おうとする。	踊る楽しさを味わいながら、互いの動きや表現の良さを認め合って、練習や発表を行おうとする。	動きを誉め、認める声かけを行い、動きに自信をもたせるようにする。
思考 判断	課題からイメージにふさわしい動きを仲間と話し合って選択し、構成することができる。	課題からイメージにふさわしい動きを選択することができる。	動きを示しながらイメージを引き出すヒントを与えたり、声かけをする。
技能	イメージをとらえた動きを、全身を極限まで動かし、大きな動きで感じを込めて踊ることができる。	イメージを意識して、見ている人に伝わるように大きく動いて踊ることができる。	仲間の動きをまねることや言葉がけを行うことで動きを引き出す。

8 本時の展開

段階		学習活動及び学習内容	指導上の留意点	形態・教材・教具
導入 10分	気 付 く	1 集合 あいさつ ・元気にあいさつをする。	・元気に、明るく大きな声で、あいさつをさせる。 ・自然に体と心がほぐれるようにする。 ・本時の課題のイメージを持たせる。	・一斉 ・CDラジカセ ・ビデオ
		2 体ほぐし ・ストレッチ ・ミラー&シャドー 磁石		
「雪」のイメージをつかんで表現しよう				
展開 30分	予 想 す る	4 本時の課題を確認する。	・本時の課題について見通しを持たせる。 ・一人ひとりのイメージを大切に し良さを認める声がけをする。	・紙板書 個人 ・太鼓 グループ ・ワークシート
		5 各自のイメージを出し合う。 一人ひとりのイメージで動く。		
	6 各自のイメージを出し合い、 グループでまとめる。	【観点：思考・判断】 (方法：発言、ワークシート)		
確 か め る	7 グループごとに踊り込む。	8 課題を見せ合う。	・一人一人のイメージを大切に 良さを認め合うようにさせる。 ・賞賛しながら支援する。	・CDラジカセ
			・見せ合う中で、お互いの違いや 良さを認め合い、共感できるように にする。	
終末 10分	ま と め る	9 感想・まとめ	・感想を発表させる。 【観点：関心・意欲・態度】 (方法：記録カード、発表)	個人 ・記録カード
		10 次時の予告	・今まで学習した動きやイメージ にふさわしい動きを生かして、グ ループで作品作りを行うことを伝 える。	